公益財団法人日本宇宙少年団
2019年度事業計画書

はじめに

国内及び海外でも、宇宙ビジネスに関連する数々のベンチャー企業の設立が話題を呼び、新しい人材がこれらの活動に参加したり必要とされる時代になっています。宇宙技術がより身近なものとして我々の暮らしに役立つためには、多くの人々、国や民間企業等の協力によって培った技術が我々の生活に役立てられていることをもっと知ってもらうことも重要です。これらの宇宙技術が継承され、継続的に発展させるためには、今の青少年が新たな時代を拓く力をつけることによって、実現されるものと思っております。新たな時代を拓く力は、青少年が将来の姿を描きつつ、様々な職種の人とかかわる経験を通して豊かな人間性が養われるものと思っています。

２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックの開催までわずかとなりました。２０２０年の国内「宇宙」トピックスには、「はやぶさ２」帰還や「Ｈ３ロケット」の打上げがあります。更に、２０２０年に向けたベンチャー企業の数々の取組みも期待されており、青少年に対して、彼ら自身の目標や将来なりたい自分をイメージすることができるような公益に資する事業を取組んでまいります。

このことから、２０１９年度の「スペースキャンプ」計画は、昨年同様に、２０２０年の宇宙トピックスを見据え、専門機関や企業と連携・協力を図って、ヒトやモノに実際に触れ、かかわり合うことのできる体験プログラムを展開し、青少年の人材育成に繋げていきます。

また、これまでも課題となっていた財団の財政基盤を充実するために、可能な範囲で収益事業を行うこと、その事業から得られる収益を公益事業、若しくは公益事業の経営に充当することにより、財政改善を図れるよう、引き続き努力してまいります。更に、公益法人移行後のＹＡＣ分団、特に休団中である分団や各地域の分団活動状況を把握するための調査と実態の把握を継続し、団員拡充への取組等を見直すための基礎情報を取得します。

公益財団法人日本宇宙少年団の取組む活動は、YAC指導者の英知と善意をもってその活動がなされており、その活動を賛助下さる関係各位のご理解とご支援により遂行できていることについて、これまで同様、心から感謝を申し上げます。

上記を踏まえ、以下に今年度の各事業における具体的な取り組みを記載します。

Ｉ．人材育成事業　（公１）

未来を担う青少年に、宇宙及び科学をテーマとした体験・体感型学習を通して興味や関心を喚起させ、青少年の宇宙への夢を育む人材育成を目的に、以下の事業を行います。

１．スペースキャンプ事業
２．情報発信（宇宙教育テレビ、宇宙情報誌等）事業
３．ｗｅｂによる普及啓発事業
４．将来の特定の活動「２０２０年宇宙の旅」事業（特定費用準備資金）

１．スペースキャンプ事業

（1）種子島スペースキャンプ

ロケット打上げ射場のある種子島で宇宙・自然・交流をテーマとした宇宙開発に関わる学習、自然体験活動、野外学習を行います。
宇宙開発に関わる学習では、ＪＡＸＡ種子島宇宙センターの見学や専門家による講義、水ロケットの工作・打上げを行います。自然体験活動では、種子島の歴史や自然を学びます。野外学習では夜に天体観察を行い、都会では見ることのできない無数の星空を体感します。
時期：８月夏休み（４泊５日）
場所：鹿児島県・種子島
対象：小学４年生～中学生の団員及び一般　３０～４０名程度

（2）ＹＡＣ宇宙レポートｉｎ種子島

夏休み、冬休み、春休みの期間中に種子島宇宙センターよりロケット打上げがある場合は「ＹＡＣ宇宙レポートｉｎ種子島」としてロケット打上げ見学を計画します。

（3）筑波スペースキャンプ

ＪＡＸＡ筑波宇宙センターで宇宙飛行士模擬訓練を中心に、２０２０年度からの小学校必修科目となる英語を積極的に取り入れたプログラムを行います。国際宇宙ステーションでは、現在「英語」が公用語の一つとなっており、様々な国の人たちと一緒に仕事をするうえで、相手の意見を聞いたり、自分の意見を言えるコミュニケーションが大切となることを学ばせます。子ども達が、憧れの宇宙飛行士になった気持ちでミッションに挑戦することで、仲間とコミュニケーションを取りながら英語力を養っていく楽しさを実感させます。
時期：８月夏休み（２泊３日）
場所：ＪＡＸＡ筑波宇宙センター
対象：小学４年生～中学生の団員及び一般　２０名程度

（4）アメリカスペースキャンプ

子どもの春休みを利用し、ケネディ宇宙センターとワシントンにあるスミソニアン航空宇宙博物館、国立自然史博物館を巡り、壮大なアメリカの宇宙・航空の歴史に触れる機会を提供します。ケネディ宇宙センターでは、「火星ミッション」をテーマにした宇宙飛行士訓練体験（ATX：Astronaut Training Experience）に挑戦したり、バスツアーでロケット組立棟や発射場を見学します。スミソニアン航空宇宙博物館では、本物のスペースシャトルやアポロ宇宙船など、航空機と宇宙船の世界最大級の展示を見学します。
実施タイトル：スペースキャンプｉｎＵＳＡ２０２０・春
時期：３月春休み（５泊７日）
場所：ＮＡＳＡケネディ宇宙センター、スミソニアン航空宇宙博物館ほか
対象：４月より新小学４年生～高校生の団員及び一般　２０名～３０名程度

２．情報発信（宇宙教育テレビ、宇宙情報誌等）

（１）宇宙教育ＴＶ

宇宙関連トピックや宇宙教育イベントに合わせ、ＪＡＸＡ宇宙教育センターや外部と連携して当財団職員が番組づくりに協力・出演等を行い、子どもや一般視聴者に分かり易く紹介します。

（２）宇宙情報誌等

宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育むことを目的として「宇宙のとびら」の編集協力を行います。 この情報誌「宇宙のとびら」をＪＡＸＡ宇宙教育センター（発行）及び（公財）日本宇宙少年団（編集協力・団員配布）の連携により、年４回（６月、９月、１２月、３月）発行し団員及び賛助企業等へ発送します。

（３）ＹＡＣ通信の発行

これから予定するイベントの告知や終了したイベントの報告、分団での活動紹介やこれから設立される分団の情報等を年４回（６月、９月、１２月、３月）発行し、情報誌「宇宙のとびら」と一緒に団員へ発送します。

（４）団員への送付物

入団に際し、団員特典として、新規団員は団員証、バッジ、パスポート、冊子、ＹＡＣ通信、付録教材等を送付します。継続団員は団員証、パスポート、冊子、ＹＡＣ通信、付録教材等を送付します。

（５）団員管理システムの維持管理

財団独自に構築している団員管理システムにより、団員一人一の個人情報の適切な管理に努めます。

３．Ｗｅｂによる普及啓発活動

（１）分団等連携団体との協力推進

宇宙及び科学技術を共通の題材とした子ども達の人材育成には全国の分団との連携協力が不可欠です。そのため、分団等連携団体との連携を図るため、活動委員会が中心となり、全国の宇宙少年団分団との協力推進を行うとともに、体系的指導や共通した育成方法を毎年分団長が集う「分団長会議」の場で実践例として紹介したり、意見交換、交流等を行います。なお、分団長会議の場で活動委員会が提案する共通プログラムをｗｅｂに公開し、各分団長の参加を促します。今年度は、１１月２３日（土）、２４日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催します。

（２）活動マニュアル等のｗｅｂ公開

ＹＡＣ指導員のみならず広く一般に、活動教材集やリーダーのためのガイドブックをｗｅｂで公開し、活動の素材提供、安全管理や子ども理解等のノウハウを提供します。

（３）ｗｅｂを通したイベントの取組み

財団主催のスペースキャンプやコンテスト、団員のみならず広く一般を対象とするイベントなど、一般を含む各種事業の参加募集や実施結果等をｗｅｂを通して公開し、子ども達の宇宙及び科学に関する普及啓発を行います。

（４）講師派遣等

社会教育団体活動の指導者育成を目的とするセミナーを JAXA 宇宙教育センターと当財団が主催となり、開催地域と連携協力しながら全国で行います。
また、青少年や一般を対象にその他事業として、外部イベント等に講師派遣を行い宇宙及び科学に関する知識の普及啓発を行います。

４．将来の特定の活動（特定費用準備資金）

２０２０年宇宙の旅

地域に根ざした活動を充実し、同じ目標に向かって成長する全国組織を目指し、目標を達成させるために全体活動プログラムとして「２０２０年宇宙の旅」事業に取り組み、活動の輪を広げています。本ワークショップを通して知識の向上を目指すとともに、開催地周辺の教育団体や先生方にもご参加いただき、学習プログラムなど、宇宙のホンモノを題材としたさまざまな事業への取り組みを充実させます。

時期：夏休み　８月２日（金）～４日（日）　３日間
場所：鹿児島県・肝付町
見学：ＪＡＸＡ内之浦宇宙空間観測所 他
対象：ＹＡＣ団員及び一般（参加プログラムによる）
内容：水ロケットコンテスト２０１９、 宇宙に関わる専門家の基調講演、
　　子ども向け各種ワークショップ　他

Ⅱ．管理運営等

1．会 員

最近の分団設立減少に加え、年々団員減少の傾向となっています。このような減少対策の一つとして、事業を実施する際に、入団勧誘に力を入れて新規獲得に努めます。 また、賛助会員も毎年数件ずつ減る傾向にありますが引き続き将来を担う青少年活動への応援を継続いただけるよう積極的に働きかけていきます。

2．事務局体制

(1)要員

団員管理システムに専任1名（非常勤）を置き、非常勤1名、常勤2名の体制で事務局を維持・運営します。また、事業の内容や業務の繁忙具合によって積極的にボランティア等、臨時のマンパワー導入し効率化を図ります。

(2) 寄附金募集の推進

当財団に対する寄附金については、より一層のPR及び獲得に努めます。

以　上